

私たちの手が届く仏陀の境地



ドゥルク・チョギャル・リンポチェによるガムポパ・ソナン・リンチェンのイメージ

親愛なる友人たちへ

皆さんがお変わりなく元気で幸せにお過ごしのことと存じます。今日グル・リンポチェの日に、私は全知者ガムポパの『解脱の宝飾』にある有名な冒頭の詩句を再び取り上げたいと思います。

仏性は因であり、
貴重な人間の身体はサポートであり、
スピリチュアルガイドは条件であり、
彼らの教えは方法である。
その結果は、完全なる仏陀の悟りの境地、
さえぎるもののない、自然な目覚めた活動である。

この詩の最初の行は精髓であり、『宝生論』（英語：The Supreme Continuum、サンスクリット語：ウッタラタントラ・シャストラ、チベット語：ギユ・ラマ）全体を貫く主なテーマです。この深遠な論説は、目覚めの因である仏性を説明する次の詩句に凝縮されています。

仏陀の完全なる形が偏在しているため、
真如の中には分別がないため、
一切有情に仏性があるため、
一切有情は常に目覚めの本質を持っている。

ここで理解すべき重要なポイントが三つあります。一つ目は、すべての現象—それは一切有情の身口意を含む—は空によって偏在していること。したがって、すべての現象の自然な性質は空性です。しかし、空性はまた仏陀の本質であり、その「完全なる形」又は法身でもあります。それはあらゆる優れた性質を備えていて、決して欠けることがないため完璧です。この完全なる形、法身又は空性は、すべての現象に光り輝き偏在する、一切有情の本質であります。

第二の重要なポイントは、空は一切諸仏と同様に一切有情に平等に偏在しているため、法身の中では何の区別もありません。空又は法身は、分別も違いも、善悪もありません。したがって、「真如の中に分別はない」です。

これは一切有情が仏性を持っていることを意味し、その性質は完璧なる仏陀のそれと同じです。これはつまり、私たちは仏性から決して離れることはなく、仏性と結合することもできないのを言い表しています。善行は私たちを本性により近づけることもなく、悪行は私たちを（本性から）より遠ざけることもありません。仏性は発展されることも減退されこともなく、改善や劣化されることもありません。このことは心に留めるべく最も肝心のポイントです。

最後の三番目のポイントは、一切有情にはそれぞれの性質があり、それらは満たされる条件に依存します。ネガティブな条件に依存する者は、善悪が分からず、慈悲と怒りの区別がつかず、厚かましく、憶念（気づき）を欠けていてかつ強い情緒を持ちます。このような者たちにとって、目覚めへの道を見つけることは難しいです。また、聞き手傾向の者たちがいます。その者たちは三界から解脱する

方法を教えるスピリチュアルガイドたちに出会います。菩薩傾向の者たちは、一人のスピリチュアルガイドに出会い、そのマインドストリームズに菩提心を発展させます。そして、秘密のマントラを実践する傾向にある者たちは、一生のうちに仏陀になれる教えを授けます。これらの性質は全てひとりひとりの性格、習慣や自ら満たす条件に依存し、それらすべてが各自の結果につながります。これら幅広いタイプには個々の名称があり、おのおののキャパシティーに応じて、これらの性質のどれか一つに属します。

したがって、一切有情は仏陀になる因を持っているが、仏性が充満しているので、その種が実を結ぶための適切な条件を満たすことも大切です。それゆえに、私達は慈悲を育み、功德を積み重ね、布施などを実践し、廻向と祈願を行うことで、（仏陀への）道に適切な条件を作り出すべきです。何事も最初に、まず菩提心、少なくとも慈悲の心を生起するべきです。最中には、功德と智慧を集め、障りを清めるように努めるべきです。最後は、常に廻向と祈願を行うべきです。このようにして、私たちは自らのトランスフォーメーションに必要なすべての適切な条件を作り出すことができます。

要するに、このグル・リンポチェの日において、私は皆さんに、目覚めの因は一切有情の中に存在していることを思い出していただきたいです。したがって、仏陀になることは完全に私たちの能力範囲内ということです。このことを決して忘れずに、私たちが持っている完全なる目覚めの能力に自信を持ちましょう。

全ての愛と祈りを込めて、

サルワ・マンガーラム！



パクチョク・リンポチェ